

高圧ガス事故の状況について

平成31年3月15日

経済産業省 産業保安グループ

高圧ガス保安室

平成30年の高圧ガス事故の発生状況

1. 平成30年の事故件数は、837件（対前年△15件）

このうち「災害」は、679件（対前年△111件）、「容器の喪失・盗難」が158件（対前年▲96件）

	件数	前年比
事故件数	837件	△ 15件
うち、災害	679件	△ 111件
うち、容器の喪失・盗難	158件	▲ 96件

2. 平成30年の人身事故件数は44件（対前年△7件）

このうち、死者は0名（対前年▲1名）、負傷者（重傷者と軽傷者の計）は65名（対前年△18名）

3. 平成30年の重大事故件数は、A級0件（対前年0件）、B1級2件（対前年0件）

（事故の分類）

	死者数	重傷者数	負傷者数	物的被害額	その他
A級	死者5名以上	重傷者10名以上	負傷者30名以上	甚大な物的災害 (5億円以上)	
B1級	死者1名以上4名以下	重傷者2名以上9名以下	負傷者6名以上29名以下	多大な物的被害 (1億円以上5億円未満)	
B2級	-	-	-	-	同一事業所内の1年以内の再発（C1級）事故

※事故件数については平成31年1月末までに報告があったものであり、A級事故の件数も含め今後変更があり得る。

※高圧ガス保安法第63条第1項では、「災害」、「高圧ガス又は容器の喪失・盗難」の場合に事故届を提出することを規定。

※災害の定義

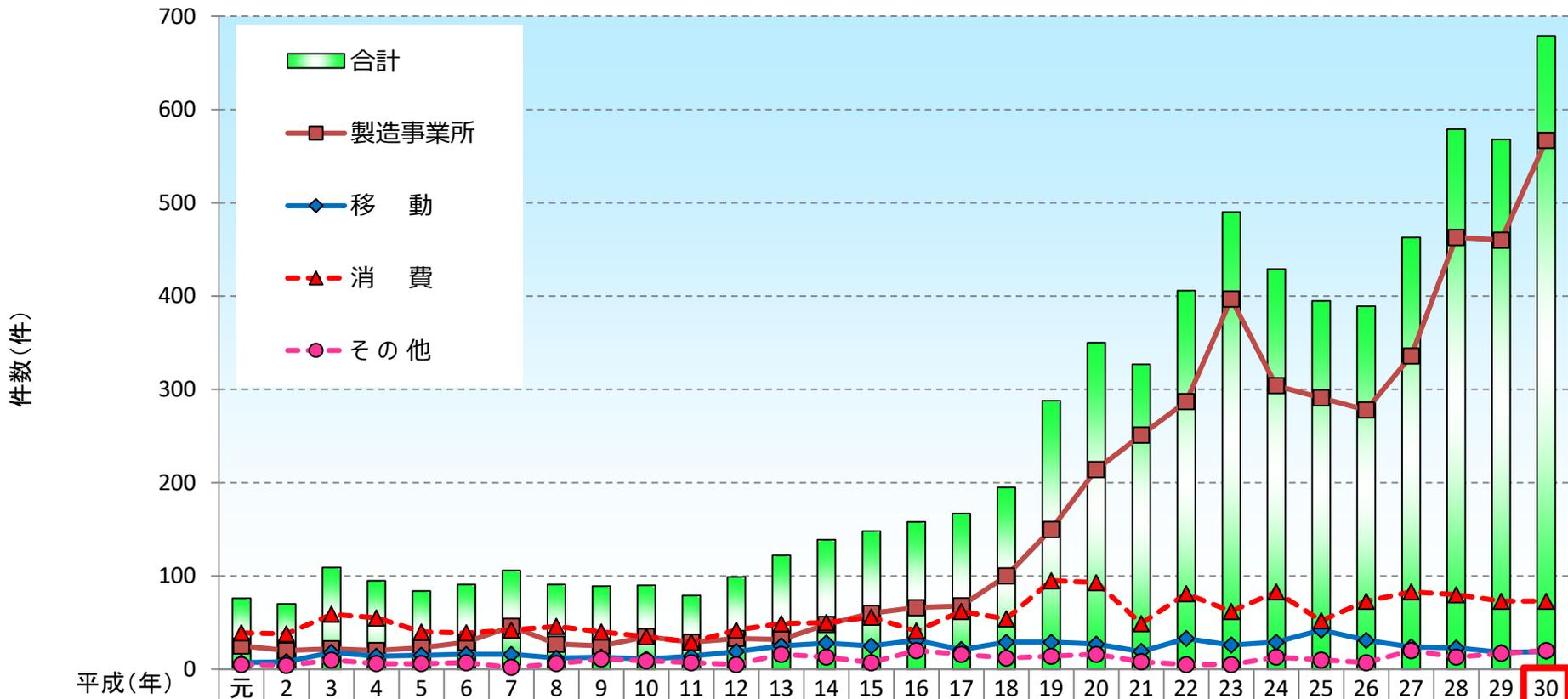
爆発：高圧ガス設備等が爆発したもの

火災：高圧ガス設備等において燃焼現象が生じたもの

噴出・漏えい：高圧ガス設備等において高圧ガスの噴出又は漏えいが生じたもの

破裂・破損等：高圧ガス設備等の破裂・破損又は破壊が生じたもの

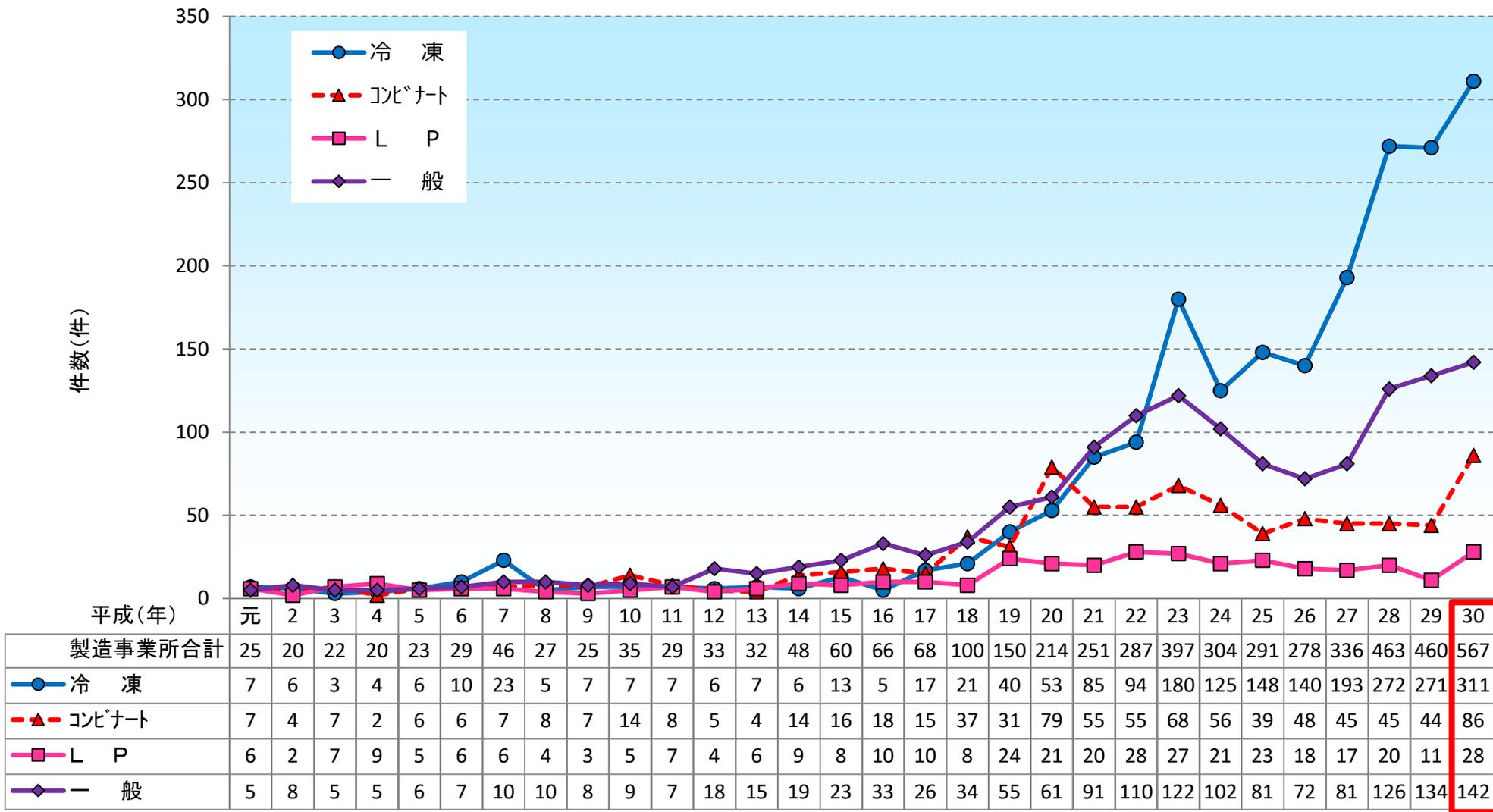
事故件数の推移【災害】



■ 合計	76	70	109	95	84	91	106	91	89	90	79	99	122	139	148	158	167	195	288	350	327	406	490	429	395	389	463	579	568	679
■ 製造事業所	25	20	22	20	23	29	46	27	25	35	29	33	32	48	60	66	68	100	150	214	251	287	397	304	291	278	336	463	460	567
◆ 移 動	7	8	18	14	15	16	16	12	13	11	14	19	25	28	25	31	21	29	29	27	19	33	26	29	42	31	24	23	18	19
▲ 消 費	39	38	59	55	40	39	42	46	40	35	29	42	49	50	56	41	62	54	95	93	49	81	62	83	52	73	83	80	73	73
● その他	5	4	10	6	6	7	2	6	11	9	7	5	16	13	7	20	16	12	14	16	8	5	5	13	10	7	20	13	17	20

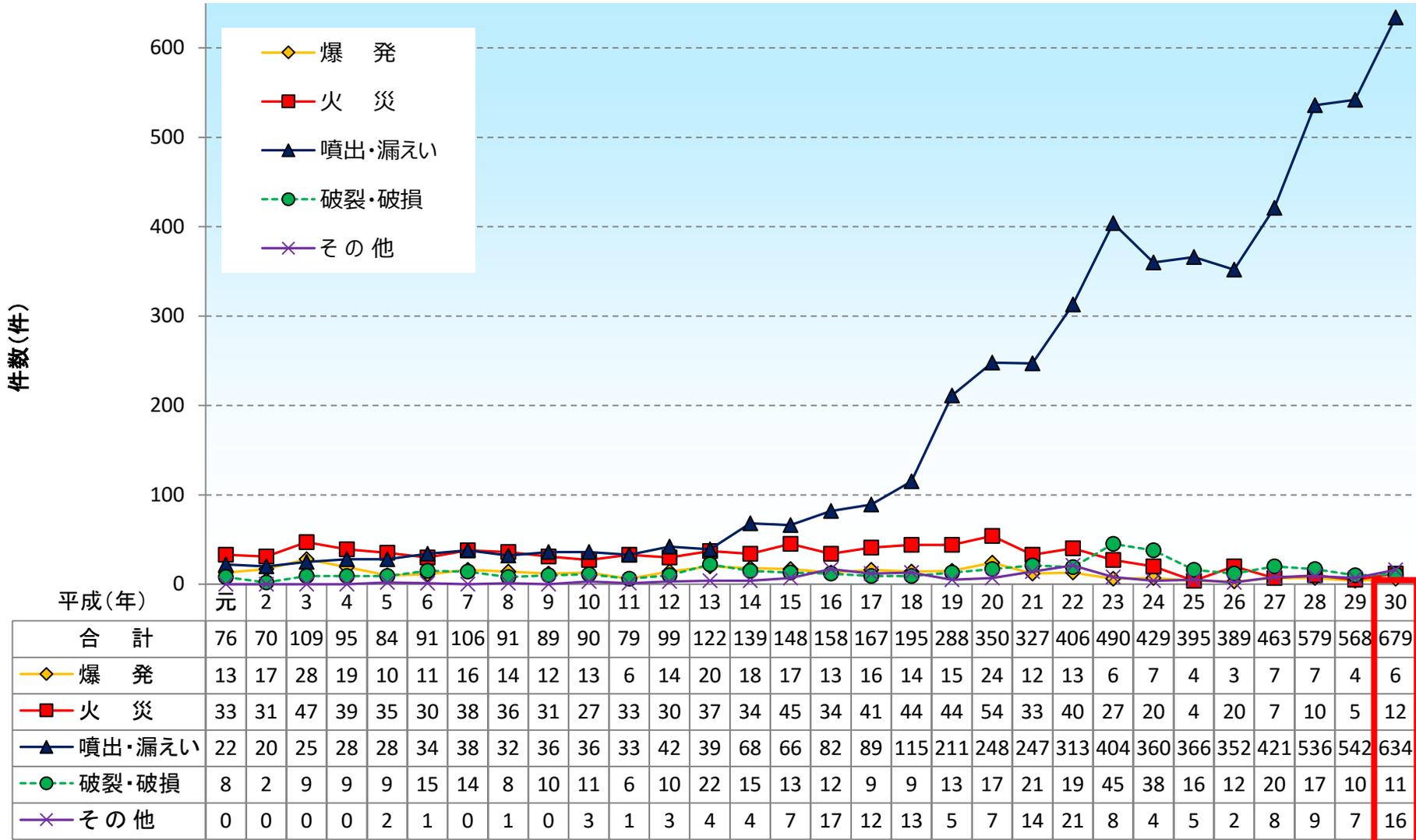
- 全体の事故件数は、平成13年に事故の定義を明確化したことやコンプライアンス意識の高まりにより、増加傾向で推移。平成30年の事故件数は前年より100件以上増加し、過去最高となった。
- 高圧ガスの事故は、製造事業所において多く発生。

製造事業所における事業所の種類別の事故件数の推移【災害】



○近年の製造事業所における事故は、冷凍事業所及び一般高圧ガス事業所で多く発生。
 ○平成30年は冷凍事業所、コンビナート事業所、LP事業所、一般高圧ガス事業所のすべてで事故件数が前年より増加した。

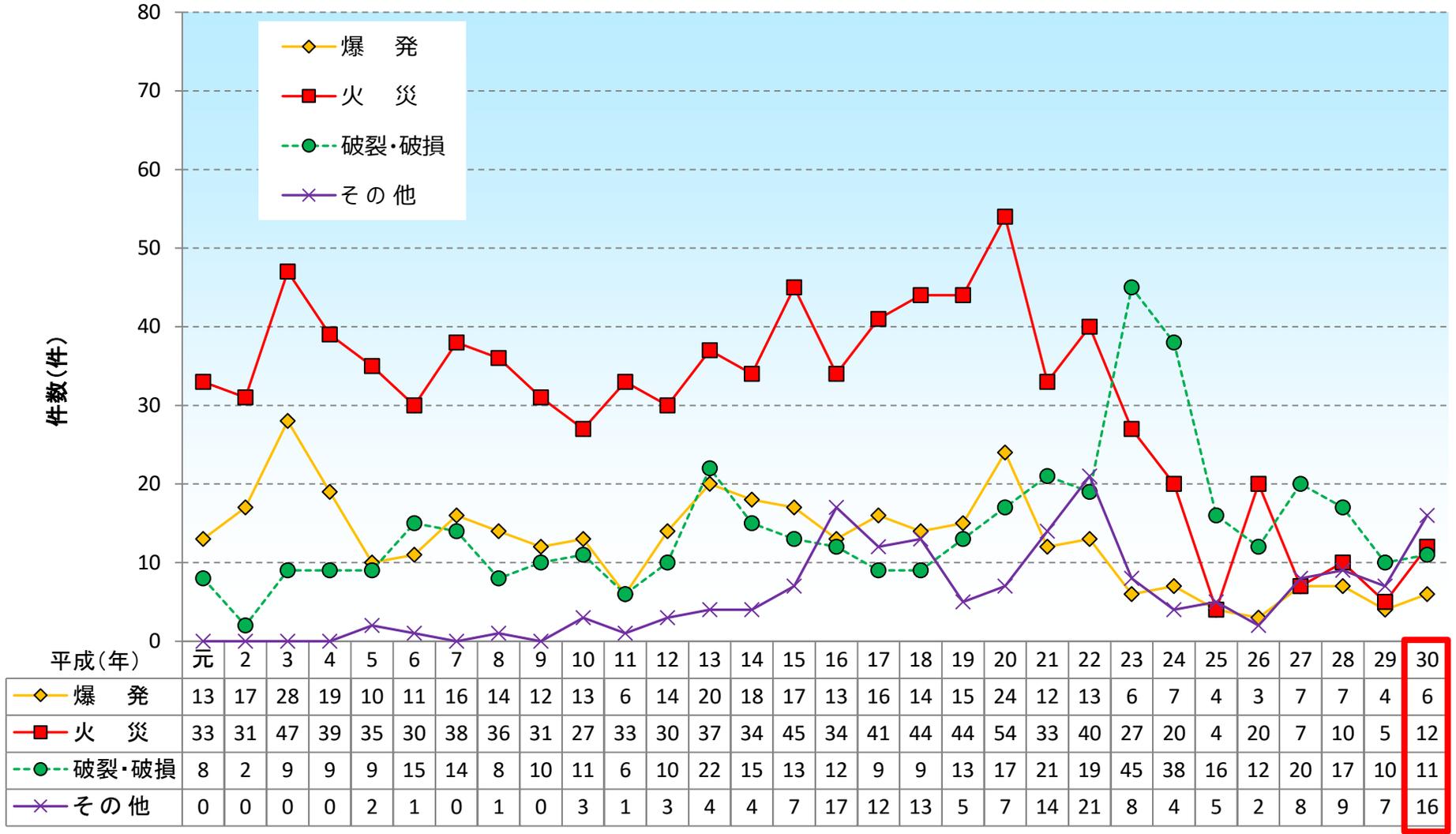
現象別の事故件数の推移【災害】



○近年の事故件数の93パーセント以上が噴出・漏えいの事故。

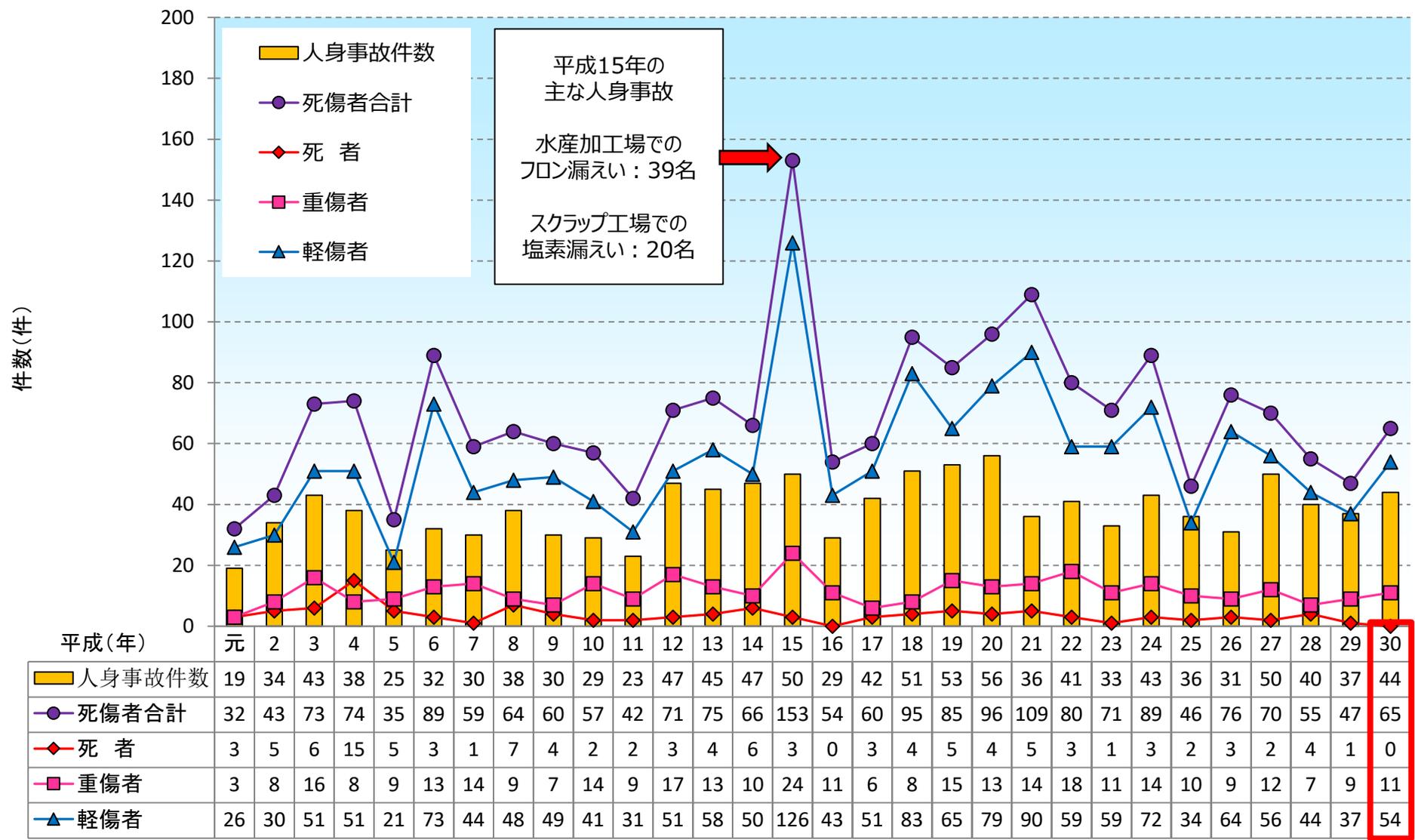
○噴出・漏えいの事故は、平成13年以降増加傾向で推移しており、平成30年は過去最高。

現象別の事故件数の推移【災害】（噴出・漏えいを除く）



○爆発、火災、破裂・破損の事故は、平成25年以降、低水準となってきたが、平成30年は若干増加した。

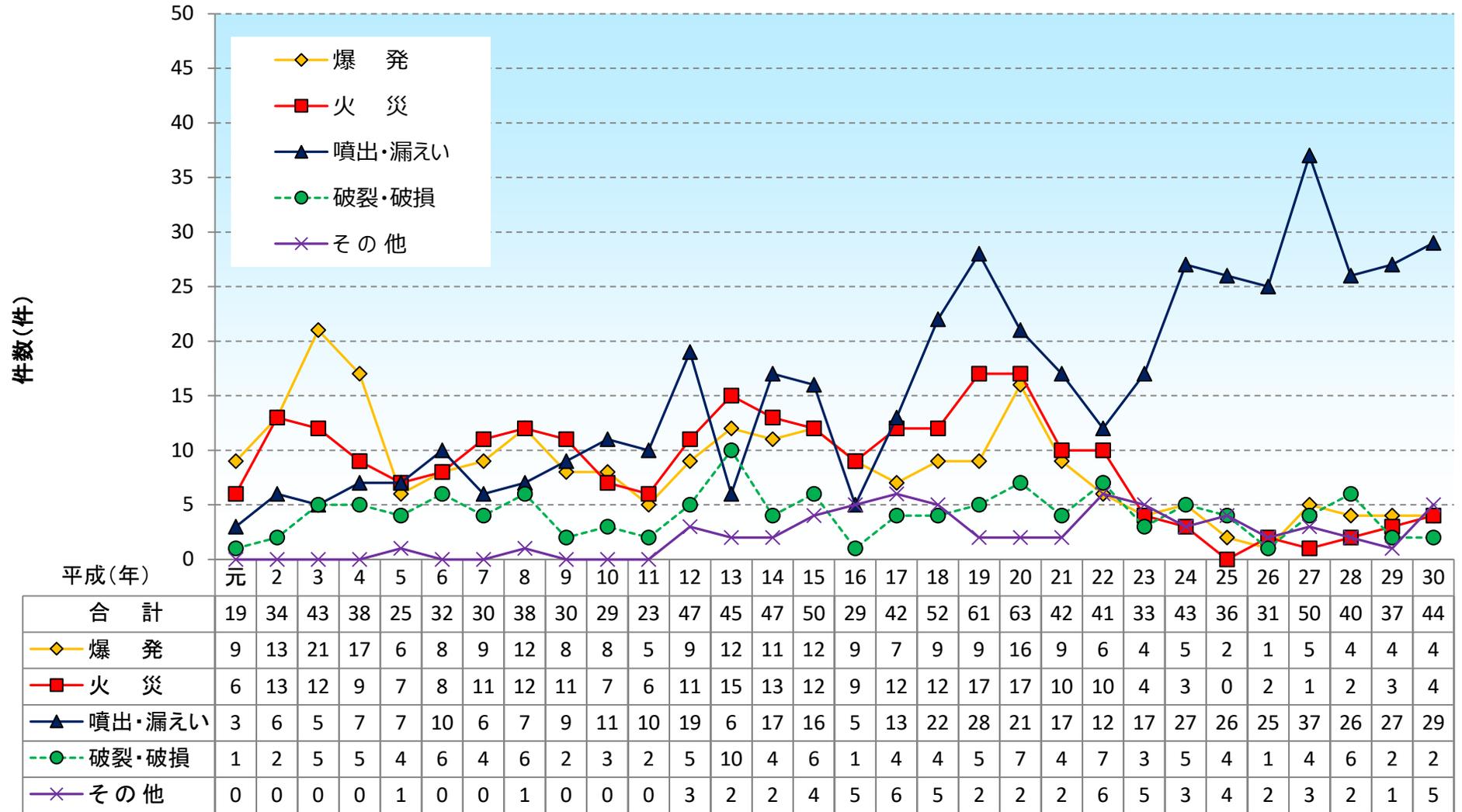
人身事故件数及び死傷者数の推移【災害】



○人身事故件数は、年により増減はあるものの、一定程度存在。

○平成29年と比較して、人身事故件数及び負傷者数は増加した。なお、死者数は0であった。（平成では15年ぶり2回目）

人身事故の現象別の事故件数の推移（人的被害が1名以上）【災害】

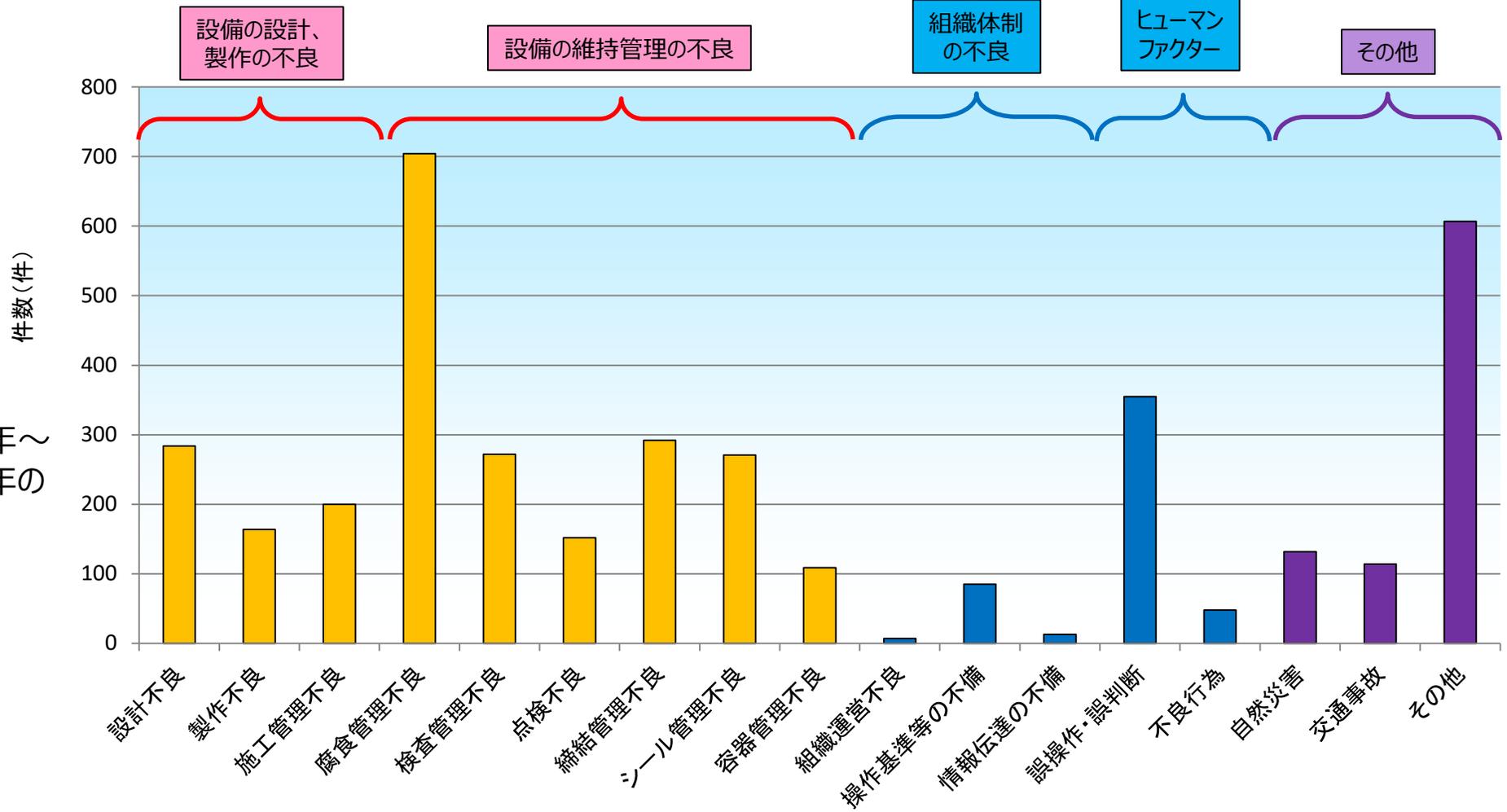


○近年の人身事故は、爆発、火災が減少し、噴出・漏えいが増加している。

事故の原因【災害】

ハード面

ソフト面



○事故措置マニュアルの変更により、H23より項目を変更

○ハード面の問題は腐食管理不良、ソフト面では誤操作・誤判断が多い

平成30年の重大事故B1級以上の事故

事故名称	月日	県名	死者	重傷	軽傷	計	物質名	規模	事故区分	事象	事故原因 (主因)	事故原因 (副因)	事故概要
ホテルの 厨房用冷 凍機から の冷媒の 漏えい	6/6	栃木県	0	0	7	7	フルオロ カーボン 22	B1	製造事業 所(冷凍)	漏えい	腐食管理 不良	---	<p>ホテルの厨房において、冷凍設備より、冷媒が漏えいし、漏えい冷媒を吸引した従業員6名が病院に搬送され、治療を受けた。また、別途、自主的に医療機関での治療を受けた者が1名おり、負傷者は計7名であった。</p> <p>厨房用パッケージエアコン（設置から約24年経過）に付属する圧縮機電源端子台が腐食劣化により破損、封入されていた冷媒（フロン22）が漏えいし、吸気ダクトから厨房場内に流入した。ガスの漏えい量は9kgである。</p>
卵焼き器 の不完全 燃焼によ るCO中 毒	10/24	静岡県	0	0	6	6	液化石 油ガス	B1	消費	その他 (中毒)	点検不良	誤操作・ 誤判断	<p>卵焼き専用の焼成機で製造中、不完全燃焼により一酸化炭素が発生し、製造事業所の従業員6名が中毒症状となった。</p> <p>原因は、焼成機的气体バーナーが劣化し不完全燃焼していたことに加え、換気扇の起動を忘れていたため、発生した一酸化炭素が焼成機室内に滞留し、近くにいた作業員が一酸化炭素中毒になったと推定される。</p>